

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年10月2日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4570600306		
法人名	医療法人向洋会		
事業所名	グループホームあけぼの		
所在地	宮崎県日向市大字財光寺1131-24 (電話) 0982-55-8048		
評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎県宮崎市原町2番22号		
訪問調査日	平成21年9月4日	評価確定日	平成21年10月2日

## 【情報提供票より】(平成21年7月11日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成13年2月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	13 人	常勤13人, 非常勤0人, 常勤換算4.7人	

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋 造り		
	2階建ての	1~2	階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷金	有( 円)	無	
保証金の有無(入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	200 円	昼食 300 円
	夕食	300 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

### (4) 利用者の概要(平成21年7月11日現在)

利用者人数	18名	男性	1名	女性	17名
要介護1	6	要介護2	8		
要介護3	2	要介護4	0		
要介護5	0	要支援2	2		
年齢	平均 84.5歳	最低	77歳	最高	97歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	協和病院、医療法人成和会和田病院、堀齒科
---------	----------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは塩見川の河口に位置し、リアス式海岸に沿って立ち並ぶ松林と川に  
対面した雑木山に囲まれ風光明媚な環境にある。利用者は、紅葉や海の色の  
季節の移り変わりを楽しみながら散歩をしたり、心を癒したりしている。  
ホームの周囲には、家庭菜園や草花を育て、利用者の能力を引き出しながら  
職員との信頼関係を築いている。訪問当日の昼食後、利用者が歌や踊りを披  
露するひとときがあり、みんなと一緒に楽しんでいる姿は、ほのぼのとして  
印象的であった。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の課題となった項目については、管理者と職員が熱心に検討を重ね改善している。災害対策については、法人とともに検討中である。特にホームの立地条件から危険が多種想定されるため、更なる訓練や安全な建物の改修に取り組む計画がある。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は、ケアの振り返りや見直しの機会ととらえており、全職員で話し合い取り組んでいる。評価のたびに、サービスの質の向上と職員の勉強意欲を高めることにつなげている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>定期的に回開催している。行政や医療、地域の民生委員や区長の参加があり、利用者の状況や外部評価等の報告をしている。会議で取り上げられた課題を検討し改善につなげたり、ホームが地域に提供できる事を伝えている。最近では地域から介護についての質問等を受けるようになった。併設の病院の認知症専門医の教室(講話)は特に喜ばれ、今後に期待が寄せられている。また、有資格者等の技術提供の働きかけを進めている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族がいつでも訪問でき、気軽に意見などが言えるような雰囲気を保っている。玄関は、重要事項説明書と意見箱や苦情相談担当者名・公的機関名も提示してある。家族からの意見は、できることできないことを含め、必ず検討している。できないことについては、納得していただけるよう説明をしている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>周囲を海と川と工業地帯に囲まれている立地環境下で、民家が少ないため隣保班としての付き合いは立地的に難しい面もあるが、地区の祭りや今年から「生き生きサロン」へ招待され、参加している。また、ホームのある地区は危険地域のため、地域住民から災害時の非難場所としての活用依頼を受けている。</p>

## 2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念の共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	楽しく心穏やかにその人らしく暮らし続けるための理念に加え、より心のこもった介護支援を実施するための理念を別に作成している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念をミーティングで唱和・確認し、業務に照らし合わせ実践に取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	災害時の避難所としての活用を区長を交え検討している。場所がら、地域住民との日々の行き来は困難だが、夏祭りや紙芝居、舞踊、公民館活動等で交流をしている。今後、介護方法等の教室を開くなど地域に貢献できるような取り組みを行いたいと考えている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価を実施することは、グループホームの質の向上のためには必要であると理解しており、評価の回を重ねるごとに一つひとつ具体的な改善につなげる努力をしている。		

宮崎県日向市 グループホームあけぼの

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3か月に1回実施し、メンバーは行政や区長、民生委員、医療機関、家族代表で構成している。外部評価や行事報告、相談等を行っている。意見等は管理者や職員で検討しサービスに反映させている。今後、2か月に1回の実施と家族会の発足への取り組みを予定している。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議では、市の担当者から行政の情報やアドバイスが得られる関係を築いている。	○	運営推進会議以外にも気軽に行政機関に向き、担当者から情報を得たり、ホーム内の小さな問題等でも相談できる関係を築いてほしい。
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族の来訪する機会を利用して日常生活の様子や、ホームの行事等を報告している。遠方の家族には、電話や手紙、ファックスを利用している。個人の金銭管理については、記載した出納帳と領収書を提示し、サインもしくは印鑑をもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書はもとより、ホームの玄関には苦情相談担当者名、公的機関名が提示され、意見箱も設置されている。職員は、家族が自由に意見が言える雰囲気づくりに取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	今年度は、法人内の専門職の配置転換が行われ、各セクションの強化が図られた。異動に際しては、利用者や家族の一人ひとりにわかりやすく理由を説明し、不安を取り除く事に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画に沿って法人内の介護技術研修や公的機関の研修を組み合わせ、全職員に研修を受ける機会を確保している。特に併設の病院を活用し救急時の対応、消防士による避難誘導が訓練されている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に所属し、他ホームとの交流を行っている。交流会には、業務を調整し1～3名参加をしている。また、管理者クラスでは、日向、門川地域で1～2か月に1回情報交換会を実施し、8～10名での定期的な交流を行っている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前に見学や希望により宿泊体験を行うことで、徐々になじめるように努めている。家族と相談しながら、納得されたうえで利用開始を行っている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活では、職員と利用者が一緒になり、台所や園芸、演劇と培ってきた技を發揮している。職員は、家庭生活の延長が理念と考えており、家族として支え合う関係を築いている。訪問当日「ここはいいよ」という利用者の声が聞かれた。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は一人ひとりの話や行動を観察し、思いや希望の把握に努めている。困難な場合は、関係者から情報の収集に努め、共有している。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	居心地の良い暮らしを支援するため、本人、家族、関係者を交えカンファレンスをし介護計画を作成している。病院を母体に行っているため、日々の申し送りは毎朝医師と総看護師長に伝達され、健康管理の指導も受けている。それぞれの意見は、介護計画に反映されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は基本的には6か月で見直し、3か月ごとにモニタリングを行っている。急変の場合には随時現状に即した対応を行っている。介護計画書は、いつ誰が見ても、見直された内容がわかる記録の工夫がされている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	成年後見人制度の説明会、介護認定申請方法、講演会の紹介、家族の宿泊、買い物支援等柔軟な支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には、本人や家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。日常生活の健康チェックと緊急時の場合は、併設病院で敏速な対応をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	母体が病院で併設している事から終末期ケアは行っていない。入居時に方針を医師が説明している。重度化し酸素や点滴に移行した場合、病院に移送することになっている。家族は納得しており、その体制があることでむしろ安心している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の研修を行っており、個人情報保護を徹底するため、誓約書の導入をしている。トイレ誘導や言葉かけの際には、個人の誇りを損ねるような対応をしないように注意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日をどのように過ごしたいのかを把握するため、体調や状況を見極めて、希望に沿ったその人のペースに合わせた支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	希望の献立や好みを聞きながら、利用者とともに献立を作成している。広いスペースの厨房では、職員と利用者が情報を交換しながら、利用者の力量に合わせた調理作業を分担している。また、同じテーブルに着き、会話をしながら楽しく食事をとっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎朝介護記録が母体病院の医師に送られ、入浴支援は本人のペースに沿って行われている。入浴を拒む場合は、言葉かけを工夫しながら、快い入浴に導びき、清潔を保つ支援をしている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴や特技がレクリエーションや調理、家庭菜園に生かされ、日常生活を通して歌や踊り、得意料理の披露、野菜造りが自然に受け入れられている。そのことが、利用者の役割と楽しみごとを兼ねており気晴らしの支援にもなっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	食材の買い物は、希望者が多いので、交代制にしている。希望に沿った外出、特に、四季折々の移り変わりを楽しめる周辺の散歩とドライブ等を支援している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	美しい環境に恵まれているが、危険要素を含む立地条件下にある。職員は鍵をかけることの弊害は理解しているが、徘徊等が大きな事故につながりかねないので鍵をかけている。		

宮崎県日向市 グループホームあけぼの

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ホームは、法人の敷地内にあり、併設施設全体の災害マニュアルが作成されている。年2回の避難訓練、消防士による消火や救急法等を行っている。	○	グループホームは、海岸や河口に面し危険区域にある。洪水や津波も想定した法人全体や市の協力の下での対策が必要と思われる。避難経路の改善とともに、備蓄やいろいろな災害に対する対策等を更に検討してほしい。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設病院の管理栄養士の指導を受け、高齢者の必要栄養量に準じて献立を作成している。利用者の好みも取り入れながら、栄養のバランス・水分管理をしている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	2階への階段はやや勾配があるが廊下や多目的ホールは広くて明るく、温度設定も適切で過ごしやすい。至る所に季節の花やグッズが置かれている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族にお願いして、使い慣れた物や好みの物を取り入れ、落ち着ける部屋造りをしている。また、家族や本人の希望で、宿泊もできる。		

※  は、重点項目。